

令和3年5月26日

一般社団法人和歌山市薬剤師会
会長 阪井 哲司 様

和歌山県製薬協会 会長 高橋 邦夫



「東京大学 先端科学技術研究センターWEB セミナー」開催のご案内

新緑の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当協会の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、和歌山県製薬協会では、医薬品関連企業の技術力向上を目指して、東京大学先端科学技術研究センター（先端研）と連携し、先端研の講師先生による「WEB セミナー」を開催いたします。

先端研は、文系と理系の垣根を越えた領域横断の研究活動を行っている、日本でも有数の研究機関の1つです。

今回のセミナーは、永江玄太先生に「最新ゲノム解析技術をがん診療に役立てる」をテーマにご講演いただきます。

最先端の研究内容を聴講できる貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

また、会員の皆様にもご案内いただけますよう、併せてお願い申し上げます。

※ZOOMによるWEBセミナーです。

パソコン、WEBカメラ、インターネット環境等については、各自でご準備ください。

また、「会場参加」として、工業技術センターでのご視聴も可能です。

記

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 日 時 | 令和3年6月24日（木）16:00～16:40 |
| 2 | 講 師 | 東京大学先端科学技術研究センター
ゲノムサイエンス&メディシン分野
社会連携研究部門 ゲノムサイエンス&メディシン分野
特任准教授 永江 玄太 先生 |
| 3 | 講演テーマ | 「最新ゲノム解析技術をがん診療に役立てる」 |
| 4 | 申込期限 | 令和3年6月10日（木） |
| 5 | 参加費 | 無料 |
| 6 | 申込方法 | 別紙・「申込様式」にて、お申し込みください。 |
| 7 | お問合せ | 和歌山県製薬協会事務局 岡井 |

E-mail : info@wakayama-seiyaku.jp

電話 : 073-441-2661



「第2回東京大学先端科学技術研究センターWEBセミナー」

(6/24 (木) 16:00 開催) 参加申込

会 社 名	
職 氏 名	
電 話 番 号	
メールアドレス またはFAX	
視聴方法	WEB参加 ・ 会場参加 ※いずれか○で囲んでください。

◎WEB 参加を希望される方

- ・WEB 会議ソフト ZOOM の操作が可能な方。
- ・パソコン、WEB カメラ、インターネット環境等については、各自ご準備ください。

◎会場参加を希望される方

- ・和歌山県工業技術センター内の会議室をご準備しております。
- ・開始 10 分前までにお越しください。(駐車場無料)

【会場】和歌山県工業技術センター

東大先端研 永江玄太 特任准教授

略歴

2000 年 3 月	東京大学医学部医学科卒業
2000 年 5 月	東京大学医学部附属病院 内科研修医
2001 年 6 月	NTT 東日本関東病院 内科研修医
2002 年 6 月	自治医科大学附属病院 内科研修医
2008 年 3 月	東京大学大学院医学系研究科博士課程 修了
2008 年 4 月	東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員
2010 年 10 月	東京大学先端科学技術研究センター 助教
2015 年 10 月	東京大学先端科学技術研究センター 特任教授
2017 年 7 月	東京大学先端科学技術研究センター 講師
2021 年 4 月	東京大学先端科学技術研究センター特任准教授

研究分野

ヒトのからだは数百種類もの細胞から構成されていますが、その固有の遺伝子発現パターンはエピゲノム修飾で厳密に制御されています。エピゲノム制御の破綻は様々なヒトの病気で観察され、特に癌においては、遺伝子配列の異常に加えて、エピゲノム異常が深く関わっていると考えられています。こうしたエピゲノム異常を様々な方向からアプローチして、病気の解明や臨床応用につなげていきたいと考えています。

1. エピゲノム情報より癌の性質を調べる（臨床癌組織のメチル化解析）

多くの癌臨床組織のメチル化異常をゲノムワイドに調べることで、同じ種類の癌でも制御破綻には様々なパターンがあることがわかります。こうしたパターンが癌の性質と多様性にもどのように関わっているかを研究しています。

2. エピゲノム修飾異常がどのようにしてできるのか（エピゲノム制御解析）

DNA（シトシン）メチル化やヒストン修飾、クロマチン構造などのエピゲノム制御がどのような機序で破綻しているか研究しています。エピゲノム修飾因子の異常は多くの癌で見られており、その制御異常の関与が示唆されています。

3. エピゲノム情報をより詳細に調べる（微量細胞におけるエピゲノム解析）

微量細胞からのエピゲノム修飾検出技術の開発を行っています。究極的には一細胞で実現することにより、細胞の分化や癌組織における細胞不均一性の理解が進むことが期待されます。